

母さんへ

「書いた小説が本になってん」

そうって、単行本化された本を母に送った私。出版社主催の文学賞で佳作入

ことです。でも佳作の



場合、自費出版と変わらない

費用分担がありました。



そこは押し黙っています。

この出来事は母によって



町中に伝播

され、高校時代の担任からはお祝いまで頂くことに。

母さん、ごめんばい。でも、いつか、必ず、堂々と本に

してもらえる作品を書き、天国にいる母さんへ届けます。